

提言第12号 胸腔穿刺に係る死亡事例の分析

事例6

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代、急性心不全、慢性腎不全で人工呼吸管理、抗血栓療法中の患者。
- ・ 右胸水貯留に対し、循環器内科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留を確認。穿刺部位は、右第 11 肋間背側を選択。
- ・ 試験穿刺の詳細不明。本穿刺で排液が約70 mL あり（性状不明）。胸腔穿刺終了後、約 2 時間後に血圧低下。CT 検査で縦隔の左方偏位、右血胸と判断し、胸腔ドレナージを実施し、約1,000 mL の血性排液を認め、当日死亡。
- ・ 死因は、肋間動脈損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖有。